

宮崎県防衛協会青年部会宮崎支部会員の皆様には、令和三年の新春を清々しく、そしてお健やかに迎えのことに、衷心よりお慶びを申し上げます次第です。

先月も残念乍ら自衛隊関連行事は全てキャンセルされ、昨年出席した自衛隊行事は唯一7月末の北富士演習場で実施された「高等工科学校#64 生徒・富士野営激励慰問」のみでした。

またコロナが蔓延する現状では来月予定している恒例の当支部総会も予断を許さず、会場関係者とも連携しつつ、早めに開催の有無のご案内を皆様に致す所存です。

さてコロナに明け暮れた昨年は東京オリンピックも延期され、菅新政権誕生の陰でトランプ氏は退陣し、「三密」が流行語大賞となりました。

年末年始の「GoToトラベル」も全国一斉停止となり、宿泊や交通そして飲食業界等は大打撃かも知れませんが、恐らく官邸とすればコロナの拡散をくい止めるための苦渋の決断であり、事実過酷な医療現場等からは「遅きに失した」との声も漏れ伝わって来ています。

そんな中、小川先生からいつものタイムリーな「メルマガ」が今月も届き、お許しを得て掲載致しますので是非ともご一読頂き、皆様の感想なりともお聞かせ願えれば幸いです。

・自衛隊はドラえもんのポケットじゃないぞ！

医療崩壊の現実直面して、北海道旭川市と大阪府に自衛隊の看護官(看護師)が派遣されることになりました。

「政府は7日、新型コロナウイルスの感染拡大で**医療提供体制の逼迫**(ひっぱく)が懸念されている北海道旭川市と大阪市に自衛隊の看護官を派遣する調整に入った。**知事の要請**を受けて派遣する見通しで、派遣人数を検討している。(後略)」(12月8日付**毎日新聞**)

しかし、**自衛隊側も余裕がない**のは一般の医療現場と同じです。私も防衛省・自衛隊のOB組織「隊友会」の理事を務めていますが、OBのみならず、現役からも厳しい声が出ています。

「ドラえもんのポケットじゃあるまいし、自衛隊に頼めばなんでも出てくると思わないで欲しい。今回の事態を教訓に、病院の施設や装置はもとより、一朝一夕に育成できない**医療従事者の確保**

にただちに取り組んで欲しい」

自衛隊の医療従事者(医官、歯科医官、看護官など自衛官)は、**医官 1100**、**歯科医官約 253 人**、**看護官など約 1000 人**となっています。

さらに 16 個所の自衛隊病院(2021 年に 10 個所に統廃合)には自衛官ではない看護師も勤務しており、一部の**自衛隊病院**は一般市民にも開放され**コロナ患者**の受け入れも行っています。

余裕のないことがおわかりでしょう。今回は、その看護官のうち**部隊**など病院以外に**配置**されている人員から、**派遣**することになります。

そこで思ってしまうのです。これを機に、**菅義偉首相**は特に自衛隊の基盤をなす**陸上自衛隊**について**適正規模**の 25 万人を目指し、**組織改編**を含めて**国民に提起**してはどうか、と。

25 万人というのは、世界で 6 番目に長い日本列島の**海岸線**をもとに、**大規模災害**の時の最後の砦である**陸上自衛隊**に**必要なマンパワー**を弾き出したものです。

組織改編は、**どんどん進む高齢化社会**を前提とし、定年延長や女性の進出、ロボット化では対応できない限界を、**発想を変えて乗り越えよう**というものです。

例えば、**戦闘任務**には従事しないけれども、**特技で自衛隊を支える制度**があってもよいのではないか。

IT 分野や**医療分野**だけで勤務する人材は、心身の条件などに合わせた自衛官としての基本的な訓練は施しますが、**あとの任務**は災害派遣と有事にあたっての**部隊等**の警備に限定します。

このような条件であれば、人員の面から自衛隊の**適正規模**に近づけ、**高齢化社会**に対応することもできますし、今回のような事態にあっても**医療分野**の人材の投入について、期待に応えられるのではないかと考えています。

きわめて大雑把な絵図面ですが、固定観念を棄てた発想の転換のもと、**多様化する任務**に対応できる組織を生み出すことができるのではないかと思います。以上 (小川和久)

我々の「防衛協会」は発足当時「自衛隊協力会」との名称で設立された経緯があり、当時は「国民と自衛隊を繋ぐ架け橋」としての役割を期待されており、今もそれは全く変わりません。

但し自衛隊の方が「阪神淡路大震災」や「東北大震災」などの大活躍で国民に認知され、今や90%を超える多くの国民から「自衛隊を信頼する」と言わしめるほどの組織となりました。

本来国土防衛が主たる任務で設立された「警察予備隊」は、自衛隊法改正により「災害派遣」も本来任務に格上げされましたが、今尚その編制はお寒い限りで小川先生ご指摘の通りです。

発足当時からの防衛協会青年部会宮崎支部が担う「国民と自衛隊を繋ぐ架け橋」の役割は当然の事乍ら、陸海空各自衛隊の本来任務遂行に必要な人員や装備の充実を図りその実現の為には、やはり憲法改正による「自衛隊明記」が何よりの近道かと存じます。

今年もまた「憲法改正」の国民的気運を早急に盛り上げる為に、宮崎支部の皆様には特段のお力添えを改めてお願い申し上げますねばなりません。

コロナの終息が中々見えぬ中、息詰まるような日々が永遠に続くようにも思われますが、WithCorona の新生活様式を各々で工夫し毎日の暮らしを楽しむことが出来ればそれが普段の生活習慣となるはずで、恐らく先の大戦を体験した先人達も国内外での不自由な暮らしの中に何かしらの楽しみを見出し乍ら、辛く重苦しい日々を乗り切ったのではないかと、年頭に当たり思いを巡らすところです。本年も変わらず何卒宜しくお願い申し上げます。

令和3年1月1日

宮崎県防衛協会 青年部会 宮崎支部長 小 倉 和 彦